



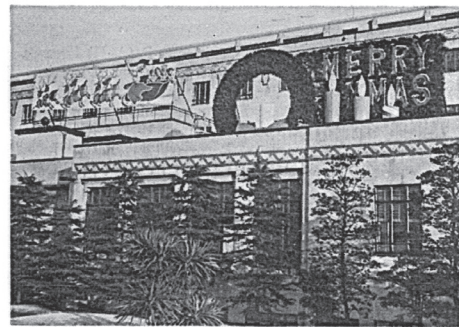
聖路加 チャペル ニュース

2020年11月29日 No. 260

〒104-0044
東京都中央区明石町10-1
聖路加国際大学礼拝堂
TEL 5550-2416
TEL 5550-7043
FAX 5550-7070
E-mail: chapel@luke.ac.jp
URL: <http://nssk.org/tokyo/church/luke>



Treat yourself to this view tonight. You won't feel far from home near this Christmas splendor.



Santa and his prancing reindeer dash away from TAH and the lovely Christmas greeting on the roof.



Our Japanese friends in the neighborhood stop to enjoy the nativity scene set up in front of the hospital.

米軍に病院が接収されていた時代の機関紙 Tokyo Army Hospital 「TOWER」 Vol. III No.6 (1954年12月24日) より。等身大のクリブが屋外に飾られ、それを眺める和服の人たち。バルコニーにはサンタ、トナカイ、リース、ローソクが。

聖書に学ぶ会

10月からリモート (Zoom) で行っています。

第1・第3木曜日 午前10時 新約聖書 (ケビン司祭)

第2・第4火曜日 午後5時30分 旧約聖書 (関司祭)

ご関心のある方は、チャペルにお問い合わせください。

巻頭メッセージ

クリスマスをお祝い

礼拝案内

月・火・木・金曜日

■午前8時30分 朝の礼拝 トイスラーホール

水曜日

■午前8時30分 聖餐式 トイスラーホール

※第2水曜、第3水曜、第3水曜の礼拝は午前8時45分～

日曜日

感染予防対策のため、礼拝時間を変更しています

■午前7時 聖餐式 トイスラーホール

■午前9時30分 聖餐式・説教 臨時チャペル

■午前11時 聖餐式・説教 臨時チャペル

巻頭メッセージ

クリスマスMASを祝う

司祭 バルナバ 関 正勝

「言(ことば)は肉となって、わたしたちの間に宿られた。」

(ヨハネ福音書一・一四)

今年の一年はコロナ禍の影響を受けて教会での礼拝も休止状態を強いられてしまいました。この自粛状態での礼拝堂における、共に集い、共に祈り、共に賛美し、共に安否を問う合う関係が疎遠となってしまった日々は閉塞感に支配されていると言えましょう。それだけにこれまでの礼拝生活の姿がどれほどにわたしたち一人ひとりを励ます行為であったかを実感せられています。しかし、このような厳しい状況下で改めて信仰と生活の新しい在り方が求められそれぞれに工夫されてきているように思います。クリスマスが伝える福音は「光は暗闇の中で輝いている。」と福音記者ヨハネが伝えています。「暗闇」にあつてこそ一筋の「光」が導いてくれる。その光は「暗闇」を生きざるを得ない者にとってどれだけの勇氣と希望そして励ましを与えてくれることでしょうか！

その「光」とは、み子イエスが「肉となつて、わたしたちの間に宿られた」と言う事実にはかなりません。神がわたしたち人間と同じ「肉を取られた」。

わたしたちはここに希望の「光」を見ます。神は現実の、この傷つき傷つけられやすい「肉」となれた。わたしたちの信じる神は「愛」だと言います。「愛」は徹底して相手(人間)のために自己変形(変革)する。そのことで相手を生かします。その神は不動・不変の神ではなく、わたしたちと同じ「肉」を取ることで「愛」を生きてくださる。「肉となつて」まで「暗闇を生きるわたしたちを生かす一筋の光」へと自己変形される愛の神に感謝する日こそ、クリスマスの祝い日に他ならないでしょう。そのことと共にわたしたちの現実と日々の生活は「神が肉を取られた現実と日々」であること、したがって、この現実と日々は「軽蔑することの許されない」・「愛する相手」に他ならないことをわたしたちに迫っています。わたしたち自身が変わること。わたしはわたしであつてあなたとの関係でわたしではなくなる・新しい(それまで経験したことのない)自分になることが求められている、そここそクリスマスの喜びがある、と言えましょう。クリスマス おめでとうございます。